二〇二五年五月三〇日

高階に望む一湾ヨット群れ　わかば
薔薇庭に海展けたる異人館　澄子

二〇二五年五月二九日

青空の彼方へ声や杜鵑　よし女
散水を巧みに逃れ夏の蝶　澄子
遠雷に途中放棄す庭仕事　澄子
再会の嬉しくビール注ぎこぼれ　うつぎ
あめんぼう水面に笑窪散らしけり　康子
腕振つて広がる歩幅風薫る　千鶴

二〇二五年五月二八日

食国の膳は玉ねぎづくしかな　せいじ
蚊遣火や眠れる犬の鼻先に　博充
苔清水雫を珠と抱へたり　むべ

二〇二五年五月二七日

病室を周る麦茶の大薬缶　愛正
遊泳のごとくに風の早苗揺れ　明日香
ビロードのやうに波打つ苔涼し　康子
ひと粒の涙をとどめ昼寝の子　康子

二〇二五年五月二六日

麦秋を裳裾としたる播磨富士　わかば
プラタナス並木の統ぶる緑夜かな　むべ
路地うらら窓より九九を習ふ声　なつき

二〇二五年五月二五日

海峡に色戻りたる梅雨晴間　あひる

二〇二五年五月二四日

万緑や目に効くといふ寺詣で　やよい
松原の間遠に見ゆる卯浪かな　せいじ
瀬しぶきと戦ふごとく夏の蝶　藤井
捨畑の夏草隠れ売地札　なつき

毎日句会みのる選・二〇二五年六月一日